

Vol. 3

No. 1

March. 1974

BEETLES

びいとるず

大阪甲虫同好会



## 目 次

1. 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について (第5報)	
V. 調査資料の報告と解説	2
(53). ハムシ科	2
(54). ヒゲナガゾウムシ科	4
(55). オトシブミ科	5
(56). ゾウムシ科	6
(57). オサゾウムシ科	9
(58). キクイムシ科	9
VI. 総合考察	11
VII. 適 要	18
2. 屋久島のハナノミ採集記録 (清山好美)	19

## 灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について (第5報)

木村 裕・林 靖彦・野村英世  
伊藤建夫・小林 卓・今井義則  
仁科成行

### V. 調査資料の報告と解説

#### (53). ハムシ科 Chrysomellidae

種の同定は大野正男氏にお願いした。

1. *Smaragdina nipponesis* CHUJO キイロナガツツハムシ
2. *Cryptocephalus nigrofasciatus* JACOBY タテスジキツツハムシ
3. *Demotina fasciculata* BALY マダラカサハラハムシ
4. *Basilepta ruficollis* JACOBY ムネアカサルハムシ
5. *Tricholochmaea semifulva* JACOBY アカタデハムシ
6. *Aulacophora nigripennis* MOTSCHULSKY クロウリハムシ
7. *Stenoluperus nipponensis* LABOISSJERE ヒゲナガウスバハムシ
8. *Exosoma flaviventris* MOTSCHULSKY キバラヒメハムシ
9. *Hesperomorpha hirsuta* JACOBY ケブカクロナガハムシ
10. *Fleutiauxia armata* BALY クワハムシ
11. *Monolepta pallidulum* BALY ウスイロウリハムシ
12. *Aphthona perminuta* BALY ツブノミハムシ
13. *Lipromima minuta* JACOBY サシゲトビハムシ
14. *Luperomorpha tokejii* CHUJO et OHNO
15. *Phylliodes subrugosa* JACOBY ヒメルリナガスネトビハムシ
16. *Psylliodes angusticollis* BALY ナストビハムシ
17. *Psylliodes punctifrons* BALY ナトビハムシ
18. *Sphaeroderma chujoi* OHNO
19. *Sphaeroderma fuscicorne* BALY キイロタマノミハムシ

調査期間中に飛来の認められた種類は、Clytrinae, Clyptocephalinae, Eumolpinae, Galerucinae, Alticinae の5亜科に属し、19種110頭であった。

これらの内Clytrinae, Clyptocephalinae, Eumolpinae の3亜科に所属する種は4種で、総飛来体数も僅か7頭にすぎず灯火にはほとんど飛来しないものと考えられる。

Galerucinae 亜科は7種飛来が認められたが個体数は少なく全体の4.5%にすぎず、残りの95% Alticinae 亜科に属し種類数も8種と最も多かった。

最も飛来数の多かった種類はツブノミハムシで全体の75.7%を占め、その成虫飛来は4月下旬～月上旬の長期間認められ、発生ピークは4月下旬～5月中旬で過半数が飛来した。本種が多かったのは調査場所周辺に食草となるサクラの木が多数植えられていたためであると考えられる。次に多かったのがヒメルリナガスネトビハムシで全体の16.3%を占め、前種と合わせると90%以上を占めた。の飛来時期は5月下旬より認められたが、その発生ピークは9月上旬で他の種が減少する頃が最も



第1表 ハムシ科調査日別飛来消長

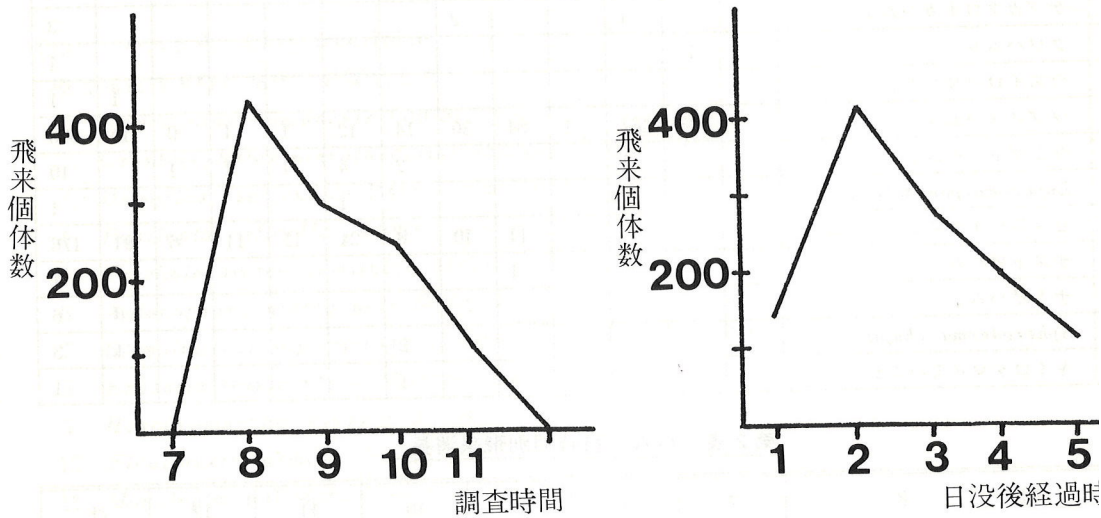
種名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1 キイロナガツツハムシ					1	1							2
2 タテスジキツツハムシ									1				1
3 マダラカサハラハムシ									1				1
4 ムネアカサルハムシ						1	2						3
5 アカタデハムシ			4			1	1	6	3			1	16
6 クロウリハムシ					1								1
7 ヒゲナガウスバハムシ			8	2	11	3	2						26
8 キバラヒメハムシ						1		1					2
9 ケブカクロナガハムシ			1			2							3
10 クワハムシ		1											1
11 ウスイロウリハムシ												1	1
12 ツブノミハムシ		183	487	1	64	30	14	12	1	4	0	10	806
13 サシゲトビハムシ			1				2	4	1	1	1		10
14 <i>Luperomorpha tokejii</i>								1					1
15 ヒメルリナガスネトビハムシ					14	10	8	24	12	11	6	91	176
16 ナストビハムシ					1								1
17 ナトビハムシ												6	6
18 <i>Sphaeroderma chujoi</i>							2					1	3
19 キイロタマノミハムシ							1						1

第2表 ハムシ科時刻別飛来消長

種名	7	8	9	10	11	12	計
1 キイロナガツツハムシ	0	1	1	0	0	0	2
2 タテスジキツツハムシ	0	1	0	0	0	0	1
3 マダラカサハラハムシ	0	0	0	0	0	1	1
4 ムネアカサルハムシ	1	0	1	0	1	0	3
5 アカタデハムシ	1	4	5	3	2	1	16
6 クロウリハムシ	1	0	0	0	0	0	1
7 ヒゲナガウスバハムシ	0	8	6	7	5	0	26
8 キバラヒメハムシ	0	0	1	1	0	0	2
9 ケブカクロナガハムシ	0	2	0	1	0	0	3
10 クワハムシ	0	1	0	0	0	0	1
11 ウスイロウリハムシ	0	0	1	0	0	0	1
12 ツブノミハムシ	4	380	213	140	69	0	806
13 サシゲトビハムシ	1	1	3	5	0	0	10
14 <i>Luperomorpha tokejii</i>	0	0	0	1	0	0	1
15 ヒメルリナガスネトビハムシ	11	32	50	57	24	2	176
16 ナストビハムシ	0	0	0	1	0	0	1
17 ナトビハムシ	0	0	2	3	1	0	6
18 <i>Sphaeroderma chujoi</i>	0	1	0	1	1	0	3
19 キイロタマノミハムシ	0	1	0	0	0	0	1

第3表 ハムシ科飛来個体数の季節的变化と時間帯

時間帯	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	1	1	0	2	1	0	0	0	2	3	9	1
8	0	105	257	2	22	5	6	5	4	2	0	24	43
9	0	26	159	1	22	13	7	16	5	5	2	27	28
10	—	40	60	—	28	18	8	16	5	5	2	38	22
11	—	12	24	—	18	12	11	11	1	2	0	12	10
12	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—
計	0	184	501	3	92	49	32	48	19	16	7	110	1,06



第1図 ハムシ科時刻別飛来消長

かった。

灯火への飛来は日没直後より始まり、日没2時間後が最も多くその後漸減した。

(木)

(54). ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

種の同定は芝田太一氏にお願いした。

1. *Choragus* sp.
2. *Araecerus tarsalis* SHARP アカアシヒゲナガゾウムシ
3. *Ozotomerus japonicus* SHARP ウスモンツツヒゲナガゾウムシ
4. *Phloeobius gibbosus* ROELOFS セマルヒゲナガゾウムシ
5. *Uncifer* sp.

ヒゲナガゾウムシ科の飛来は5月中旬に始まり8月下旬で終り、そのピークは6月中下旬であり、飛来個体数の大部分はウスモンツツヒゲナガゾウムシとセマルヒゲナガゾウムの2種類で占められ、この2種類を比較するとセマルヒゲナガゾウムシが5月中旬～7月中旬に飛来しているのに対し、ウスモンツツヒゲナガゾウムシは6月中旬～8月中旬と約1ヶ月遅かった。しかし両種とも飛来期間は2ヶ月でその発生パターンも一山型であることより年1回の発生と考えられる。また飛来時刻をみると他の多くの種類と異なるようなピークはなく、だらだらと飛来が続いた。しかし個々の種についてみると、アカア



ゲナガゾウは日没直後に、セマルケシヒゲナガゾウは午後11時頃に多く飛来する傾向がみられた。

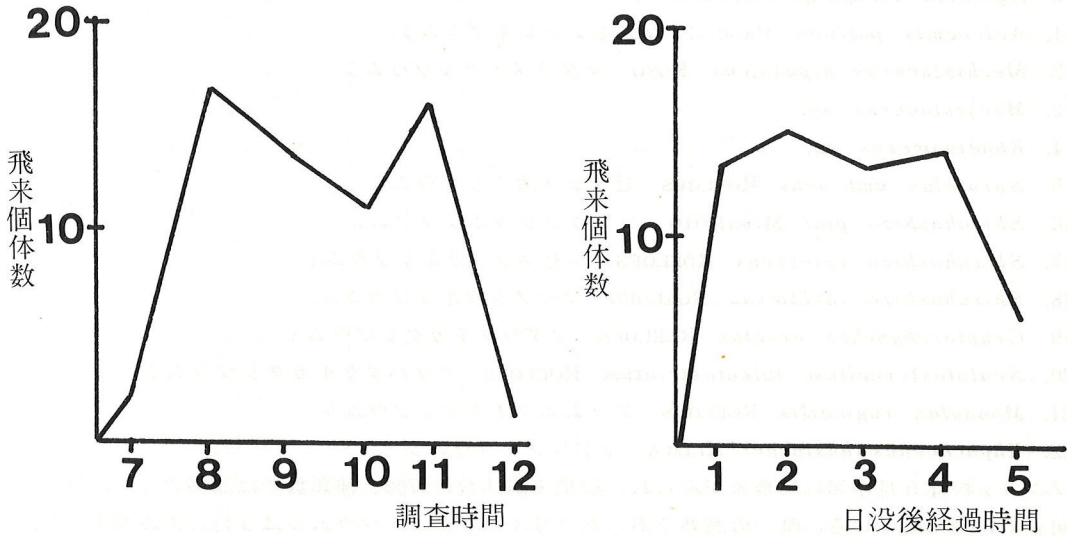
(野村)

第4表 ヒゲナガゾウムシ科調査日別飛来消長

種名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1 Choragus sp.						1							1
2 アカアシヒゲナガゾウムシ						2	1						3
3 ウスモンツツヒゲナガゾウムシ						3	13	13	10	2	5		46
4 セマルヒゲナガゾウムシ			2		1	3	3	1					10
5 Uncifer sp.											1		1

第5表 ヒゲナガゾウムシ科時間帯別飛来消長

種名	7	8	9	10	11	12	計
1 Choragus sp.	0	0	1	0	0	0	1
2 アカアシヒゲナガゾウムシ	2	1	0	0	0	0	3
3 ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	0	14	11	9	11	1	46
4 セマルヒゲナガゾウムシ	0	2	2	1	5	0	10
5 Uncifer sp.	0	0	0	1	0	0	1



第2図 ヒゲナガゾウムシ科時間帯別飛来消長

(55). オトシブミ科 Attelabidae

種の同定は森本桂氏にお願いした。

飛来の認められたのは次の3種で、午後9時~10時にそれぞれ1頭飛来したのみにすぎなかった。

1. *Deporaus unicolor* ROELOFS コナライクビチョッキリ
2. *Merhynchites assimilis* ROELOFS カシルリチョッキリ
3. *Apoderus erythrogaster* VOLLENHOVEN ヒメクロオトシブミ

第6表 オトシブミ科調査日別飛来消長

種名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1 コナライクピチョッキリ							1						
2 カシルリチョッキリ					1								
3 ヒメクロオトシブミ						1							

(56). ゾウムシ科 Curculionidae

種の同定は森本桂氏にお願いした。

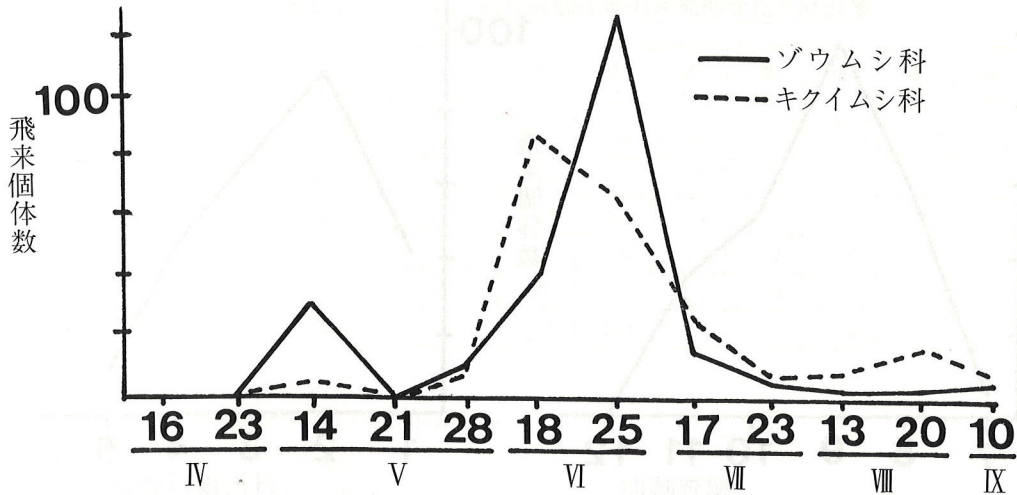
1. *Phyllobius annectens* SHARP ミヤマヒゲボソゾウムシ
2. *Phyllobius brevitarsis* KONO コヒゲボソゾウムシ
3. *Phyllobius intrusus* KONO ヒラズネヒゲボソゾウムシ
4. *Phyllobius galloisi* HUSTACHE コブヒゲボソゾウムシ
5. *Phyllobius* sp.
6. *Phyllobius* sp.
7. *Mylocerus griseus* ROELOFS カシワクチブトゾウムシ
8. *Cryptepistoms castaneus* ROELOFS クリイロクチブトゾウムシ
9. *Bagous* sp.
10. *Hylobius elongatus* ROELOFS ホソアナアキゾウムシ
11. *Acicnemis palliata* PASCOE ウスモンカレキゾウムシ
12. *Mechistocerus nipponicus* KONO マダラメカクシゾウムシ
12. *Mechistocerus* sp.
14. *Rhadinomerus* sp.
15. *Syrotelus umbrosus* ROELOFS ヒメクチカクシゾウムシ
16. *Shirahoshizo pini* MORIMOTO コマツノシラホシゾウムシ
17. *Shirahoshizo rufescens* ROELOFS ニセマツシラホシゾウムシ
18. *Shirahoshizo insidiosus* ROELOFS マツノシラホシゾウムシ
19. *Cryptorrhynchus erectus* ROELOFS マダラクチカクシゾウムシ
20. *Sculptosternellum sulcatostriatum* ROELOFS アラハダクチカクシゾウムシ
21. *Monaulax rugicollis* ROELOFS アラムネクチカクシゾウムシ
22. *Rhynchaenus hustachei* KLIMA ヤドリノミゾウムシ

ゾウムシ科は5月中旬に初飛来がみられ、総飛来個体数の97%、種類数では22種のうち21種が中旬までに飛来している。唯一の例外であったクリイロクチブトゾウムシは9月にのみ飛来した。

種類別に飛来時期をみると、シラホシゾウムシ類(16~18)は5月中旬より9月中旬までと飛来期間は非常に長く、飛来個体数も全体の73%を占めた。これは調査地点周辺にマツの植生が多いためと考えられる。個体数は上記グループに比較すると僅かであったが、ヒゲボソゾウムシ類(1は5月中旬~6月下旬、クチカクシゾウムシ類(19~21)などは6月中旬~7月中旬に飛来が認められたが、その飛来期間は短かった。また、この調査で得られた全ての種は、飛来量のピークが1回限りしかみられなかったことより、年1回の発生と考えられる。

日没時刻と飛来数の関係は、日没2時間後に飛来ピークがあり、その後漸減した。また気象条件を検討すると、気温18~23°C、無風のときに飛来が多い傾向が認められる。(野)

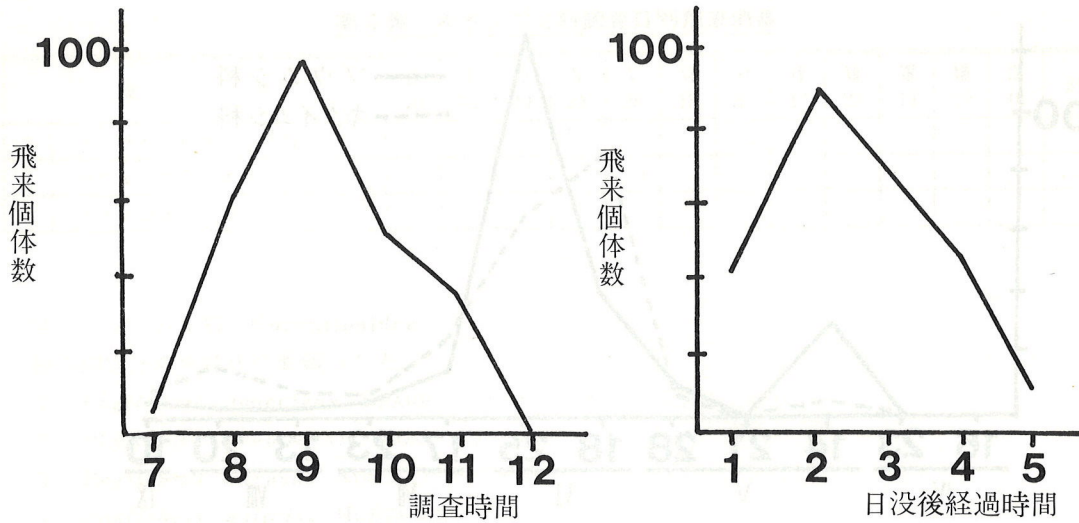




第3図 ゾウムシ科・キクイムシ科の年間飛来消長

第7表 ゾウムシ科・オサゾウムシ科調査日別飛来消長

種名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1 ミヤマヒゲボソゾウムシ			1										1
2 コヒゲボソゾウムシ					1		1						2
3 ヒラズネヒゲボソゾウムシ			2		2								4
4 コブヒゲボソゾウムシ						2	1						3
5 <i>Phyllobius</i> sp.			11		1	2	2						16
6 <i>Phyllobius</i> sp.			2										2
7 カシワクチプトゾウムシ					2			1					3
8 クリイロクチプトゾウムシ												2	2
9 <i>Bagous</i> sp.							1						1
10 ホソアナアキノゾウムシ			1				2						3
11 ウスモンカレキノゾウムシ						2							2
12 マダラメカクシゾウムシ							1	1					2
13 <i>Mechistocerus</i> sp.								1					1
14 <i>Rhadinomerus</i> sp.						1							1
15 ヒメクチカクシゾウムシ						1							1
16 コマツノシラホシゾウムシ			4		2	16	56		1		1		80
17 ニセマツシラホシゾウムシ			6			6	35	5	1			1	54
18 マツノシラホシゾウムシ			4			6	36	2		1		1	50
19 マダラクチカクシゾウムシ			1					1					2
20 アラハダクチカクシゾウムシ			2		1	3	6	2					14
21 アラムネクチカクシゾウムシ							2	1					3
22 ヤドリノミゾウムシ								3					3
1 オオゾウムシ							11	10					21



第4図 ゾウムシ科時刻別飛来消長

第8表 ゾウムシ科・オサゾウムシ科時刻別飛来消長

種名		7	8	9	10	11	12	計
1	ミヤマヒゲボソゾウムシ	0	0	1	0	0	0	
2	コヒゲボソゾウムシ	0	0	1	1	0	0	
3	ヒラズネヒゲボソゾウムシ	0	0	2	1	1	0	
4	コブヒゲボソゾウムシ	0	0	0	1	2	0	
5	<i>Phyllobius</i> sp.	0	2	8	4	2	0	
6	<i>Phyllobius</i> sp.	0	2	0	0	0	0	
7	カシワクチプトゾウムシ	0	1	1	1	0	0	
8	クリイロクチプトゾウムシ	0	0	0	0	2	0	
9	<i>Bagous</i> sp.	0	0	1	0	0	0	
10	ホソアナアキゾウムシ	0	1	1	1	0	0	
11	ウスモンカレキゾウムシ	0	0	2	0	0	0	
12	マダラメカクシゾウムシ	0	1	0	1	0	0	
13	<i>Mechistocerus</i> sp.	0	0	0	0	1	0	
14	<i>Rhadinomerus</i> sp.	0	0	1	0	0	0	
15	ヒメクチカクシゾウムシ	0	1	0	0	0	0	
16	コマツノシラホシゾウムシ	2	19	29	18	12	0	
17	ニセマツノシラホシゾウムシ	1	13	24	9	7	0	
18	マツノシラホシゾウムシ	0	14	20	11	5	0	
19	マダラクチカクシゾウムシ	0	2	0	0	0	0	
20	アラハダクチカクシゾウムシ	0	3	2	4	5	0	
21	アラムネクチカクシゾウムシ	0	0	2	1	0	0	
22	ヤドリノミゾウムシ	0	1	1	1	0	0	
1	オオゾウムシ	0	1	8	8	4	0	



第9表 ゾウムシ科飛来個体数の季節的变化と時間帯

時間帯	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
8	0	0	15	0	4	12	24	5	0	0	0	0	60
9	0	0	11	0	4	11	65	4	0	1	0	0	96
10	—	0	5	—	0	6	37	4	1	0	0	1	54
11	—	0	2	—	1	10	17	4	1	0	0	2	37
計	0	0	34	0	9	39	143	17	2	1	1	4	250

(57). オサゾウムシ科 Rhychophoridae

種の同定は我々でおこなった。

1. *Hyposipalus gigas* FABRICIUS オオゾウムシ

6月25日、7月17日の調査日において、各回10頭前後飛来した。

(58). キクイムシ科 Scolytidae

種の同定は野淵輝氏にお願いした。

1. *Scolytus frontalis* BLANDFORD ニレカワノキクイムシ
2. *Blastophagus brevipilosus* EGGERS ケミジカキクイムシ
3. *Phloeosinus minutus* CHAPUIS ヒバノヒメキクイムシ
4. *Xyleborus adumbratus* BLANDFORD ツヤナシキクイムシ
5. *Xyleborus defensus* BLANDFORD シイノホソキクイムシ
6. *Xyleborus muticus* BLANDFORD ナラノキクイムシ ?
7. *Xyleborus saxeseni* RATZEBURG サクセスキクイムシ
8. *Xyleborus semiopacus* EICHHOFF サクキクイムシ
9. *Xyleborus* sp.
10. *Scolytoplatypus mikado* BLANDFORD ミカドキクイムシ

第10表 キクイムシ科調査日別飛来消長

種名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
1 ニレカワノキクイムシ								1					1
2 ケミジカキクイムシ							2						2
3 ヒバノヒメキクイムシ						35		11	3				49
4 ツヤナシキクイムシ			1		5	42	54	11		5	2	1	121
5 シイノホソキクイムシ						2	2						4
6 ナラノキクイムシ ?							7		2	1	15		25
7 サクセスキクイムシ								1					1
8 サクキクイムシ						5		1		1	1	4	12
9 <i>Xyleborus</i> sp.							1						1
10 ミカドキクイムシ					1								1

ククイムシ科の飛来は5月中旬に始まり、6月中下旬にピークがみられ、その後はしだいに減少する点はゾウムシと類似しているが、梅雨明けより秋期にかけてはゾウムシ科の種ほど激減しなかつた。

また種類別にみると、比較的飛来個体数の多いツヤナシククイムシ、サクククイムシ、ナラノキクイムシ?の3種は飛来期間が長いが、他の7種は非常に限られた短期間のみ飛来している。

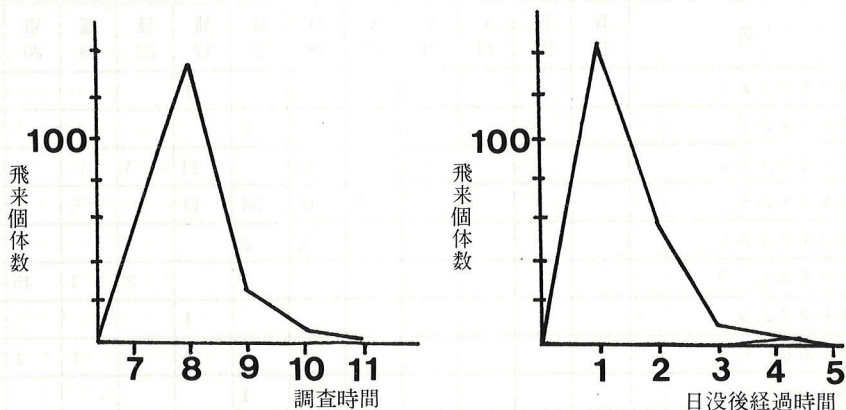
次に飛来時刻を調べると、総飛来個体数の約70%が日没1時間以内にみられ、残りの大部分も日没1時間に飛来している。これは科全体ばかりなく個々の種についても同様のことがいえる。

第11表 ククイムシ科時刻別飛来消長

種名	7	8	9	10	11	12	計
1 ニレカワノククイムシ	1	0	0	0	0	0	
2 ケミジカククイムシ	0	2	0	0	0	0	
3 ヒバノヒメククイムシ	5	41	1	1	1	0	
4 ツヤナシククイムシ	29	69	21	2	0	0	122
5 シイノホソククイムシ	1	3	0	0	0	0	
6 ナラノククイムシ?	12	13	0	0	0	0	25
7 サクセスククイムシ	1	0	0	0	0	0	
8 サクククイムシ	4	6	1	1	0	0	
9 <i>Xyleborus</i> sp.	0	1	0	0	0	0	
10 ミカドククイムシ	1	0	0	0	0	0	

第12表 ククイムシ科飛来個体数の季節的変化と時間帯

時間帯	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
7	0	0	1	0	6	19	3	6	0	3	13	3	
8	0	0	0	0	0	61	42	19	4	4	4	1	
9	0	0	0	0	0	2	20	0	0	0	0	1	
10	—	0	0	—	0	2	1	0	0	0	1	0	
11	—	0	0	—	0	0	0	0	1	0	0	0	
計	0	0	1	0	6	84	66	25	5	7	18	5	



第5図 ククイムシ科時刻別飛来消長



## VI 総 合 考 察

1966年4月16日～9月10日の12回の調査において、雨の日や風の強い日など調査にとって悪条件の日があったが、非常に多くの種類が、また珍しい種類が採集された。

第1巻、第1号において報告したように灯火への飛来は気象条件によって大きく左右され、特に風の影響は非常に大きく、従来より夜間採集をおこなえば多くの個体数が得られる5月下旬においても、強風のため飛来数は激減した。また調査回数は毎月、新月を中心とした前後2回のみで、回数が少なかったため、年間の飛来消長については十分に考察することは出来ないが、種類数、個体数とも6月中旬が最も多く、毎回150種前後の飛来があり、個体数も2,000頭をうわまった。

調査期間中、飛来の認められた種類は58科401種に達し、飛来個体数は14,779頭であった。これらのうちで飛来個体数の多かったのは、キシジミゾドロムシ、ホソミツカドコナヒラタムシ、ヒゲブトゴミムシダマシ、トゲバゴマフガムシ、ミツモンセマルヒラタガムシで、この5種類で総飛来個体数のほぼ50%を占めた。そのため科別飛来個体数も、これらの種が所属する科の個体数が多く、ベストファイブは、ヒメドロムシ科（総飛来個体数の22.9%）、ホソヒラタムシ科（16.5%）、ゴミムシ科（8.7%）、ハムシダマシ科（8.4%）、ハムシ科（7.3）で、これら5科で全体の63.8%を占め、ベストテンでは83.6%と大半を占め、残りの僅か16.4%が48科にわたる多くの科の種類の総個体数であった。

また種類数では、ゴミムシ科（61種）が圧倒的に多く、次いでカミキリムシ科（28種）、ハネカクシ科（26種）、コガネムシ科（24種）、ゾウムシ科（22種）が多く、これら5科で総飛来種類数の41%を占めた。このように多くの種類が飛来した科がある反面、まったく飛来しなかった科やツチハンミヨウ科、テントウダマシ科、オオキノコムシ科など1種類しか飛来しなかった科が14科あった。このように1科1種の飛来個体数を調べると、一部の例外を除けば1～数頭の飛来があったにすぎない。このことからこれらの科に属する種類は趨光性はまったくないか、あっても非常に低いものと考えられる。

飛来期間は短期間であったが、ガムシ科やヒメドロムシ科に属する種の飛来数が極めて多かったのは調査地点が川に非常に近かったためと考えられる。またハムシダマシも飛来数が多かったが、この種は近畿地方の低山地に普通に分布している種で、従来より、昼間は枯れ木やソダの中にみだされ、夜間においては灯火による夜間採集で、非常に多くの個体数が飛来することが観察されている。このことから趨光性は非常に高いものと考えられる。

このように多くの種類が採集されたが、個々の種について検討すると、低山地とはいえ大阪平野部の灯火に飛来する種とはかなり異なっており、平野部において多数飛来するコガネムシ科のドウガネブイブイ、ヒメコガネなどの飛来は、岩湧山では非常に少なく僅か数頭にすぎず、またゴミムシ科の趨光性がやゝ高いと言われているアオゴミムシの飛来も少なかった。このように調査場所ひとつを取りあげても飛来する昆虫相は著るしく異なるので僅かばかりの資料で灯火に飛来する甲虫類がどうであると断定することは非常に困難であるが、比較的飛来個体数の多かった種について季節による飛来型を次にまとめた。

### 1. 春型（4～5月に飛来のピークがある）

この時期には58科中ほぼ半数の科に属する種が飛来し、ジヨウカイボン科、ハムシ科、キシムシ科がこの型にあてはまる。

### 2. 初夏型（6月に飛来のピークがある）

この時期にはほとんどすべての科に属する種が飛来し、ゴミムシ科、ガムシ科、ハネカクシ科、ハムシダマシ科、カミキリムシ科、ゾウムシ科、キクイムシ科など多くの科がこの型にあてはま

第13表 年間飛来消長

科名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10
1 ゴミムシ科		17 (7)	144 (9)	5 (1)	53 (9)	403 (15)	410 (27)	55 (17)	52 (17)	63 (9)	23 (6)	65 (17)
2 コガシラミズムシ科											1 (1)	
3 ゲンゴロウ科			3 (3)			1 (1)	19 (6)	1 (1)	31 (1)	13 (3)	6 (2)	14 (1)
4 ミズスマシ科						2 (2)	3 (1)	1 (1)				
5 ガムシ科			3 (2)			545 (6)	314 (9)	2 (1)	6 (3)	29 (5)	27 (5)	33 (3)
6 ムクゲキノコムシ科								1 (1)	2 (2)	2 (1)		
7 タマキノコムシ科						1 (1)	2 (1)			1 (1)	1 (1)	
8 シテムシ科			1 (1)		1 (1)	2 (1)	5 (3)	3 (2)	4 (1)	16 (1)	2 (1)	13 (1)
9 アリヅカムシ科						1 (1)	14 (4)		2 (1)	6 (1)		
10 ハネカクシ科		1 (1)	2 (2)		1 (1)	140 (11)	374 (16)	93 (9)	70 (9)	17 (10)	14 (6)	18 (6)
11 クワガタムシ科						6 (2)	6 (3)	1 (1)	2 (1)	3 (2)	7 (3)	4 (2)
12 コガネムシ科		35 (2)	19 (2)	2 (1)	7 (2)	9 (5)	16 (6)	34 (12)	17 (10)	8 (5)	8 (3)	14 (4)
13 マルハナノミ科			1 (1)						1 (1)		1 (1)	
14 ナガドロムシ科									1 (1)		1 (1)	
15 ドロムシ科											1 (1)	
16 ヒメドロムシ科							49 (1)	24 (1)	3,309 (1)			1 (1)
17 タمامシ科							1 (1)					
18 コメツキムシ科			25 (4)	1 (1)	19 (3)	21 (8)	11 (3)	13 (7)	19 (6)	6 (2)	3 (3)	9 (1)
19 ヒゲブトコメツキ科			7 (1)		5 (1)	5 (1)	2 (1)					



計  
1,290  
(61)  
1  
(1)  
88  
(7)  
6  
(2)  
959  
(13)  
5  
(3)  
5  
(2)  
47  
(3)  
23  
(4)  
730  
(26)  
29  
(4)  
169  
(24)  
3  
(3)  
2  
(2)  
1  
(1)  
3,383  
(1)  
1  
(1)  
127  
(15)  
19  
(1)

科名	IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
20 コメツキダマシ科							1 (1)	1 (1)	4 (1)	2 (2)	1 (1)		9 (2)
21 ホタルモドキ科									1 (1)				1 (1)
22 ジョウカイボン科		240 (3)	74 (9)	3 (2)	16 (7)	13 (6)	6 (3)	2 (1)					354 (13)
23 ベニボタル科						1 (1)	3 (2)			1 (1)			5 (2)
24 カツオブシムシ科							1 (1)						1 (1)
25 シバンムシ科		1 (1)					4 (3)	2 (1)	4 (1)	1 (1)	1 (1)		13 (6)
26 ヒラタキクイムシ科						3 (1)	2 (1)	3 (1)	1 (1)				9 (1)
27 コクヌスト科						1 (1)	2 (1)		3 (1)				6 (1)
28 カッコウムシ科							2 (2)	3 (2)	4 (2)				9 (5)
29 ケシクスイムシ科			4 (4)			36 (6)	42 (7)	15 (2)	137 (2)	22 (4)	11 (1)	11 (3)	278 (14)
30 ネスイムシ科											1 (1)		1 (1)
31 ヒラタムシ科			2 (1)			1 (1)	2 (1)	1 (1)		1 (1)	3 (1)	1 (1)	11 (3)
32 ホソヒラタムシ科		2 (2)	1,122 (4)		35 (2)	132 (5)	470 (4)	503 (4)	91 (5)	35 (4)	43 (4)	13 (5)	2,446 (6)
33 キスイムシ科		14 (3)	341 (4)	7 (1)	14 (2)	32 (4)	133 (4)	9 (1)	5 (2)	17 (1)	10 (1)	8 (2)	590 (8)
34 コメツキモドキ科							1 (1)						1 (1)
35 オオキノコムシ科						1 (1)							1 (1)
36 ヒメハナムシ科			1 (1)			14 (2)	82 (4)	28 (1)	1 (1)	7 (1)	1 (1)	3 (1)	137 (5)
37 ミジンムシ科			1 (1)				3 (2)		3 (2)		2 (2)		9 (3)
38 テントウムシ科			3 (2)		26 (2)	24 (5)	49 (4)	56 (4)	34 (5)	19 (3)	26 (3)	10 (2)	247 (8)
39 テントウダマシ科							1 (1)						1 (1)

科名		IV 16	IV 23	V 14	V 21	V 28	VI 18	VI 25	VII 17	VII 23	VIII 13	VIII 20	IX 10	計
41	ヒメマキムシ科			11 (2)		2 (1)	8 (2)	10 (2)	10 (2)	11 (2)	11 (1)	4 (1)	47 (2)	114 (4)
41	コキノコムシ科					1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)			5 (2)
42	ゴミムシダマシ科						15 (4)	13 (7)	43 (4)	34 (4)	2 (1)	2 (2)	1 (1)	110 (14)
43	ハムシダマシ科		150 (2)	95 (2)	8 (1)	70 (2)	662 (1)	99 (2)	60 (3)	23 (1)	5 (1)	68 (2)	9 (1)	1,249 (4)
44	クチキムシ科			2 (1)			27 (2)	15 (2)						42 (3)
45	ナガクチキムシ科								1 (1)				1 (1)	2 (2)
46	ハナノミダマシ科			5 (2)		2 (1)	3 (1)	4 (2)	17 (1)	5 (1)	3 (1)			39 (4)
47	ハナノミ科						1 (1)	1 (1)			1 (1)			3 (3)
48	カミキリモドキ科		14 (1)	4 (2)	2 (2)	5 (3)	88 (8)	96 (8)	49 (8)	40 (6)	1 (1)			299 (12)
49	ツチハンミョウ科										2 (1)	1 (1)		3 (1)
50	アリモドキ科						1 (1)	4 (2)	5 (3)	2 (2)	1 (1)			13 (5)
51	ニセクビボソムシ科						1 (1)						1 (1)	2 (2)
52	カミキリムシ科					1 (1)	36 (10)	191 (4)	19 (10)	11 (8)	1 (1)	6 (4)	1 (1)	266 (28)
53	ハムシ科		184 (2)	501 (5)	3 (2)	92 (6)	49 (8)	32 (8)	48 (6)	19 (6)	16 (3)	7 (2)	110 (6)	1,061 (19)
54	ヒゲナガゾウムシ科			2 (1)		1 (1)	9 (4)	17 (3)	14 (2)	10 (1)	2 (1)	6 (2)		63 (5)
55	オトシブミ科					1 (1)	1 (1)	1 (1)						3 (3)
56	ゾウムシ科			34 (10)		9 (6)	39 (9)	143 (11)	17 (9)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	4 (3)	256 (28)
57	オサゾウムシ科							11 (1)	10 (1)					21 (1)
58	キクイムシ科			1 (1)		6 (2)	84 (4)	66 (5)	25 (5)	5 (2)	7 (3)	18 (3)	5 (2)	211 (10)
計		0 (0)	658 (24)	2,408 (77)	31 (11)	367 (55)	2,419 (145)	2,734 (184)	1,170 (128)	3,966 (113)	323 (76)	307 (68)	396 (68)	14,771 (401)

註：( ) 内は種類数



第14表 時刻別飛来消長

科名	飛 来 時 刻							計	飛 来 型
	7	8	9	10	11	12			
1	ゴミムシ科	56	464	386	271	111	2	1,290	II
2	コガシラミズムシ科	1						1	
3	ゲンゴロウ科	13	13	20	28	9	5	88	※
4	ミズスマシ科		1	2	3			6	
5	ガムシ科	49	222	206	319	163		959	※
6	ムクゲキノコムシ科	2	3					5	I
7	タマキノコムシ科	2	1	2				5	
8	シデムシ科		10	15	13	7	2	47	III
9	アリヅカムシ科	3	14	4	2			23	I
10	ハネカクシ科	43	613	46	16	12		730	I
11	クワガタムシ科	3	8	6	4	8		29	III
12	コガネムシ科	30	63	38	24	13	1	169	I-II
13	マルハナノミ科	1	2					3	
14	ナガドロムシ科				2			2	
15	ドロムシ科		1					1	
16	ヒメドロムシ科			13	1,467	1,459	444	3,383	IV
17	タマムシ科		1					1	
18	コメツキムシ科	15	40	28	15	29		127	III
19	ヒゲブトコメツキ科	2	3	8	3	3		19	III
20	コメツキダマシ科	1	2	1	2	3		9	
21	ホタルモドキ科		1					1	
22	ジョウカイボン科	107	135	60	38	14		354	I-II
23	ベニボタル科			2	1	2		5	
24	カツオブシムシ科	1						1	
25	シバンムシ科	2	4	3	2	2		13	
26	ヒラタキクイムシ科		4	2	3			9	
27	コクヌスト科		5	1				6	I
28	カッコウムシ科		5			4		9	
29	ケシキスイムシ科	11	66	30	112	46	13	278	※
30	ネスイムシ科	1						1	
31	ヒラタムシ科	6	4	1				11	I
32	ホソヒラタムシ科	132	1,432	576	222	81	3	2,446	I-II
33	キスイムシ科	226	232	68	54	9	1	590	※
34	コメツキモドキ科	1						1	
35	オオキノコムシ科	1						1	
36	ヒメハナムシ科	4	53	41	32	7		137	III
37	ミジンムシ科	1	7			1		9	I
38	テントウムシ科	1	68	68	66	41	3	247	II
39	テントウダマシ科					1		1	

科名	飛 来 時 刻							計	飛 来
	7	8	9	10	11	12			
40	ヒメマキムシ科	20	37	25	23	9		114	II
41	コキノコムシ科	1	4					5	I
42	ゴミムシダマシ科	3	69	19	10	9		110	I-
43	ハムシダマシ科	85	686	307	112	59		1,249	I-
44	クチキムシ科		9	19	14	2		44	I
45	ナガクチキムシ科	2						2	I
46	ハナノミダマシ科	11	17	6	4	1		39	I
47	ハナノミ科		2		1			3	
48	カミキリモドキ科	8	104	81	61	42	3	299	I-
49	ツチハンミョウ科		1		2			3	
50	アリモドキ科	1	7	3	2			13	I
51	ニセクビボソムシ科			1	1			2	
52	カミキリムシ科	3	78	128	36	20	1	266	I
53	ハムシ科	19	432	283	220	103	4	1,061	I
54	ヒゲナガゾウムシ科	1	3	46	10	1		61	I
55	オトシブミ科			2	1			3	
56	ゾウムシ科	3	60	96	54	37		250	I
57	オサゾウムシ科		1	8	8	4		21	I
58	キクイムシ科	54	135	23	4	1		217	
計		926	5,122	2,674	3,262	2,313	482	14,779	

※は種類によって飛来型を異にする。

る。

3. 夏型（7月～8月中旬に飛来のピークがある）

ヒメドロムシ科、ゴミムシダマシ科、ケシキスイムシ科などがこの型にあてはまり、この型には春型の3科の飛来は一部の例外を除いてほとんどなくなり、また初夏型も漸次減少して

4. 秋型（8月下旬～9月に飛来のピークがある）

この時期は、ほとんどの科において飛来個体数、種類数が減少している時期だが、ヒメドロムシ科、ゴミムシ科のゴモクムシ類、ハムシ科のヒメルリナガスネトビハムシがピークに達している。このように4つの型にタイプ分けをおこなったが、昼間の採集データから考えあわせるとそれぞれ種の成虫の出現期に関連があるものと考えられる。

次に日没後の経過時間と飛来個体数よりタイプ分けをおこなうと次のとおりであった。

1. I型（日没直後～1時間後に大半が飛来する）…… 薄暮型

ハネカクシ科、アリツカムシ科

2. II型（日没2時間後に飛来のピークがある）…… 標準型

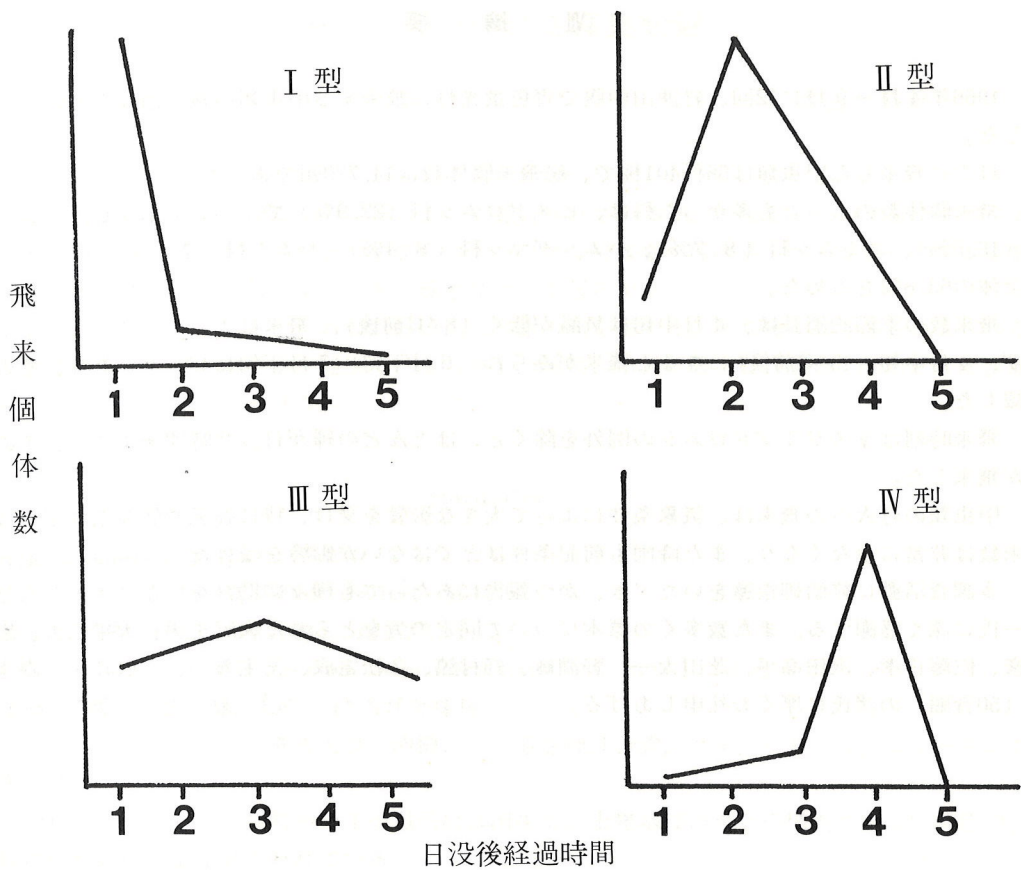
ゴミムシ科、テントウムシ科、カミキリムシ科、ゾウムシ科など多くの科がこの型に属する。またこのI型とII型の間タイプのコガネムシ科、ジヨウカイボン科、ホソヒラタムシ科、ゴミムシダマシ科、カリキリモドキ科があり、飛来のピークが長い。

3. III型（飛来のピークが判然とせず、だらだらと飛来する）…… だらだら型

シデムシ科、クワガタムシ科、コメツキムシ科、ヒメハナムシ科、ヒメマキムシ科、ヒメゾウムシ科

4. IV型（日没3～4時間後に飛来のピークがある）…… 深夜型





第6図 飛来消長型

ヒメドロムシ科

またガムシ科、ゲンゴロウ科、ケシクスイムシ科、クスイムシ科は種類によって飛来型が著しく異なった。これらの他にも多くの科の甲虫が飛来したが、個体数が少なく、これらの資料からの判定は困難であった。このようにそれぞれの種、科について飛来型が認められたが、調査時間の範囲内では、各種類とも飛来ピークは1回限りであった。12時以降の調査を実施していないが、今までに他の場所において実施してきた結果から、あまり多くの飛来は期待できない。

このようにして1年間灯火採集調査をおこなった岩湧山は、海拔こそ低い昔から昆虫の好採集地として知られ、数多くの採集者が丹念に採集を続け、他の地方では比較的個体数の少ない種類もかなり採集されている。また今回の調査においても、この山地で未記録であった *Anisodactylus andrewesi* SCHAUBERGER や *Stenolophus kurosai* TANAKA のような種も採集されたことより、現在森林の伐採が進められているが、まだ数多くのいろいろの樹木、草本が豊富に残っているので、この山地においても今後、調査が進むにつれて、多くの未記録種や珍しい種類の採集が期待できる。

(野村・木村)

## Ⅶ 摘 要

1. 1966年4月～9月に12回、岩湧山中腹で青色蛍光灯に飛来する甲虫類の飛来消長を経時的に調査した。
2. 灯火に飛来した甲虫類は58科401種で、総飛来個体数は14,779頭であった。
3. 飛来個体数のもっとも多かった科は、ヒメドロムシ科 (22.9%) で、ついでホソヒラタムシ科 (16.5%)、ゴミムシ科 (8.7%)、ハムシダマシ科 (8.4%)、ハムシ科 (7.3%) で、この5科が全体の63.8%を占めた。
4. 飛来数の季節的消長は、4月中旬は気温が低く (8°C前後)、飛来はまったく認められなかったが、4月中旬 (15°C前後) になると飛来がみられ、6月下旬～7月下旬にピークとなり、その後減少した。
5. 飛来時刻はキスジミゾドロムシの例外を除くと、ほとんどの種が日没2時間後までに、その種が飛来した。
6. 甲虫類の灯火への飛来は、気象条件によって大きな影響を受け、特に強風や低温条件下では飛来数は非常に少なくなり、また降雨も前記条件ほどではないが影響を受けた。
7. 本調査活動に終始御指導をいただき、かつ報告にあたっては種々御助言をいただきました芝田一氏に深く感謝する。また数多くの標本について同定の労をとられた大野正男、大平仁夫、黒彦、佐藤正孝、沢田高平、芝田太一、野淵輝、野村鎮、久松定成、三宅義一、宮武睦夫、森本 (50音順) の諸氏に厚くお礼申しあげる。



## 屋久島のハナノミ採集記録

清山 好美

屋久島の昆虫相については多くの人々によって報告されているが、甲虫類についてはカミキリムシ科、ハムシ科などが報告されているにすぎない。ハナノミ科は微小種が多いためか分布に関する報告がほとんどないので、いま私の手元にある標本について報告する。

本報告にあたり同定の労をとられた野村鎮氏に深謝の意を表す。また種々御指導をいただいた芝田太一氏をはじめ、多くの標本を提供くださった小西洋良、津村清信、野村英世、畑山武一郎、前田洋一の諸氏に厚くお礼申しあげる。

### Mordellini

1. *Higehananomia palpalis* KONO クリイロヒゲハナノミ  
1 ex., 宮の浦 (20. VII. 1969, 畑山武一郎採集).  
分布: 本州, 屋久島 (新記録), 西表島, 台湾.
2. *Glipa (Stenoglipa) malaccana nipponica* NOMURA コウトウオビハナノミ  
1 ex., 栗生 (19. VII. 1967, 清山好美採集)  
分布: 御蔵島, 屋久島, 奄美大島, 沖縄. 原亜種は台湾, タイ, マラッカ, ニューギニアに分布する。  
私の検した標本は前胸背前半の1小黒毛紋は消失し、上翅基部の毛と小楯板の毛は灰黄色で、尾節板は一様に白色毛でおおわれている。
3. *Glipa (Macroglipa) shirozui* NAKANE オオオビハナノミ  
1 ex., 宮の浦 (16. VII. 1963, 小西洋良採集).  
分布: 本州, 四国, 九州, 対島, 屋久島 (新記録).
4. *Glipa (Macroglipa) shibatai* NAKANE ワモンオビハナノミ (野村鎮氏同定)  
2 exs., 宮の浦 (18. VII. 1968, 野村英世採集).  
分布: 本州, 屋久島, 奄美大島, 台湾.
5. *Glipa (Macroglipa) sauteri sauteri* PIC ザウテルオビハナノミ  
1 ex., 栗生 (19. VI. 1967, 清山好美採集).  
分布: 屋久島, 奄美大島, 台湾. 原産地台湾では普通にみられる。
6. *Glipa (Macroglipa) fasciata* KONO コオビハナノミ  
1 ex., 安房 (16. VII. 1967, 津村清信採集), 1 ex., 宮の浦 (15. VI. 1969, 清山好美採集).  
分布: 四国, 屋久島, 奄美大島, 沖縄.
7. *Hoshihananomia hananomi* (KONO) キボシハナノミ  
3 exs., 小杉谷 (15. VII. 1967, 清山好美採集).  
分布: 本州, 四国, 九州, 屋久島 (新記録).
8. *Hoshihananomia perlata* (SULZER) シラホシハナノミ  
1 ex., 安房 (13. VII. 1967, 清山好美採集), 1 ex., 宮の浦 (17. VII. 1968, 前田洋一採集).  
分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島 (新記録), 朝鮮, シベリア, ヨーロッパ.

9. *Hoshihananomia borealis* NOMURA コモンホシハナノミ  
 1 ex., 栗生 (19. VI. 1967, 清山好美採集).  
 分布：八丈島, 屋久島, 奄美大島.
10. *Mordella niveoscutellata* NAKANE et NOMURA ホソクロハナノミ  
 10exs., 栗生 (20. VI. 1969, 清山好美採集), 2 exs., 船行 (1. VII. 1969, 清山好美採集).  
 分布：九州, 屋久島, 口永良部島, 奄美大島, 沖縄, 台湾.
11. *Mordella onaga* NOMURA オナガクロハナノミ  
 3 exs., 湯泊 (18. VI. 1969, 清山好美採集).  
 分布：北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島.

#### Mordellistenini

1. *Mordellistena (Pseudomordellina) kurosai* CHUJŌ クロサヒメハナノミ  
 1 ex., 宮の浦 (11. VII. 1967, 清山好美採集).  
 分布：本州 (兵庫県), 屋久島 (新記録).  
 この種は *M. (P.) ozeana* NAKANE とよく似ているが、小腮枝末節の前縁と内縁がほぼ等長に  
 り区別できる。私の検した標本は♀で、前肢は明かるい赤褐色 (先端に向いやや暗色となる)、小  
 枝・中肢脛附節・後肢脛節端刺は暗赤褐色、小腮枝末節の外縁はほとんどまっすぐである。
2. *Mordellina (Pseudomordellistena) pilosovittata* (NAKANE) ケオビヒメハナノミ  
 1 ex., 麦生 (17. VI. 1969, 清山好美採集).  
 分布：屋久島 (新記録), トカラ列島 (中の島), 台湾.
3. *Mordellina (Pseudomordellistena) amamiensis* (NOMURA) アマミヒメハナノミ  
 1 ex., 麦生 (17. VI. 1969, 清山好美採集), 3 exs., 湯泊 (18. VI. 1969, 清山好美採集).  
 分布：本州, 四国, 九州, 屋久島 (新記録), トカラ列島 (中の島, 諏訪瀬島), 奄美大島, 沖  
 縄, 台湾.
4. *Mordellina (s. str.) bruneolincta* (MARSEUL) チャオビヒメハナノミ  
 2 exs., 栗生 (20. VI. 1969, 清山好美採集).  
 分布：本州, 四国, 九州, 屋久島 (新記録), トカラ列島 (中の島, 宝島), 奄美大島, 沖縄.
5. *Mordellina (s. str.) atrofusca* (NOMURA) トゲナシヒメハナノミ (野村鎮氏同定)  
 1 ex., 宮の浦 (13. VIII. 1965, 小西洋良採集).  
 分布：本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, トカラ列島 (中の島), 奄美大島, 台湾.
6. *Mordellina (s. str.) hidakai* (NOMURA) ヒダカヒメハナノミ  
 2 exs., 宮の浦 (14. VI. 1969, 清山好美採集).  
 分布：屋久島 (新記録), 奄美大島, 沖縄.  
 ♀の小腮枝末節は長い三角形で、前縁は内縁よりあきらかに短い。
7. *Glipostenoda rosseora* (MARSEUR) チャイロヒメハナノミ  
 28exs., 各地 (14. VI. - 1. VII. 1969, 清山好美採集).  
 分布：本州, 四国, 九州, 屋久島, トカラ列島 (宝島), 奄美大島, 台湾, 中国.
8. *Glipostenoda retusa* NOMURA ヤクシマヒメハナノミ (野村鎮氏同定)  
 1 ex., 小杉谷 (14. VII. 1967, 津村清信採集).  
 分布：屋久島.
9. *Falsomordellina lateoloides* (NOMURA) ナミアカヒメハナノミ  
 1 ex., 麦生 (17. VI. 1969, 清山好美採集).



分布：本州，四国，九州，屋久島，種ヶ島，トカラ列島（中の島，宝島），奄美大島，沖縄，宮古島，石垣島，西表島，台湾，中国。

10. *Falsomordellistena chysotrichia* (NOMURA) ビロウドヒメハナノミ

2 exs., 小杉谷 (14. VII. 1967, 清山好美採集).

分布：本州，四国，九州，屋久島。

11. *Falsomordellistena konoï yakushimensis* NOMURA カタキヒメハナノミ

2 exs., 小杉谷 (14. VII. 1967, 清山好美採集).

分布：屋久島。原亜種は台湾に産する。

12. *Falsomordellistena altestrigata* (MARSEUL) フタモンヒメハナノミ

48 exs., 各地 (10—15. VII. 1967, 15—18. VI., 1. VII. 1969, 清山好美採集).

分布：本州，四国，九州，口永良部島，屋久島，奄美大島，宮古島，石垣島，与那国島，台湾，中国。

13. *Mordellistenode aka* (KONO) アカヒメハナノミ

1 ex., 船行 (1. VII. 1969, 清山好美採集).

分布：本州，四国，屋久島（新記録）。

14. *Tolidopalpus galloisi* (KONO) ガロアヒメハナノミ

1 ex: 麦生 (16. VI. 1969, 清山好美採集).

分布：北海道，本州，四国，九州，屋久島（新記録），対馬。

◎ 住所変更のお知らせ

林 靖彦 兵庫県川西市水明台3-1-73 (〒666-01)

野村 英世 大阪府泉南郡岬町深日3174-9 (A-2-102) (〒599-03)

たゞし事務所は従来通りとします。

◎ 昭和49年度会費は振替用紙によりお納め下さいますようお願いいたします。

振替口座番号 大阪 37752

加入者名 大阪甲虫同好会



## 編 集 後 記

一雨毎に木の芽もふくらみ、寒気を避けて越冬していた多くの虫も目をさまし活動にはいるなり、皆様方も張り切っておられること、思います。

諸般の事情によりBeetlesの第3巻の発刊が遅れ申しわけありません。先日やっと編集を終1巻より連載していました岩湧山の灯火への飛来甲虫の報告も本号ですべて終了し、次号よりの糞虫類について掲載する予定です。

また第1巻発刊当初より懸案となっていました印刷方式ですが、当初は資金不足のためタイセット印刷になり、会員諸氏にも不満足なことであったこと、思います。少しでも早い機会に刷に切り換えたいと考え、その資金の調達をはかり、第3巻よりこの印刷方式に切り換える準備をすすめていましたが、昨年夏以降の物不足、インフレーションの影響を受け資金調達の再検討をざるをえなくなりました。しかし会員諸氏の御協力によりやっと発刊資金のめどがつかえました。第3巻より写植印刷に切り換えました。今後の発刊もすべてこの方式を継続していく予定です。期待ください。

会員諸氏による台湾の採集はその後も順調にすすみ、毎年2～3回実施され、かなりの成果っており、ファミリーによっては非常に多くの種類がとれ、新種等もかなり採集されています。海外の採集は台湾のみならず、本年はマレーシアへの採集を計画し先般会員が出発しました。

第3巻第1号の発刊が遅れましたのでたゞちに第2号の編集にとりかかっていますが、投稿不足していますので、甲虫類の生態調査や種の解説等の原稿がありましたら、長い論文であつつかえありませんのでどしどし投稿してください。できる限り採用して掲載したいと考えています。  
(木村)

常任幹事 林 靖彦, 木村 裕, 野村 英世  
幹 事 酒匂 清和, 植田 謙一, 小西 洋良  
伊藤 建夫, 小林 卓, 前田 洋一

---

---

### びい と る ず Vol. 3, No. 1

昭和49年3月1日 印刷・発行

編 集 者 木 村 裕

発 行 者 野 村 英 世

会 計 監 査 林 靖 彦

発 行 所 大 阪 甲 虫 同 好 会

(大阪市阿倍野区松虫通1-8-10  
野村英世方)

印 刷 所 株 式 会 社 中 島 弘 文 堂 印 刷 所

---

---

季節と

え、第  
春日山

ブオフ  
写植印  
備をす  
はから  
ので、  
ので御

があが  
。また

原稿が  
てもさ  
おりま  
寸記)

